

号外

2024年9月23日発行  
 発行者 日本共産党利島支部  
 笹岡 寿一  
 〒100-0301  
 東京都利島村850番地  
 電話 04992-9-0191  
 Fax 04992-9-0241  
 メール to\_sasaoka@yahoo.co.jp

# あしたば

日本共産党利島支部機関紙

<知は力> 豊富な内容と真実を伝える  
「しんぶん赤旗」日曜版をご購読下さい[月930円]

村の政治は村の人々の為に  
 あります。皆さんの要望・  
 ご意見などお寄せ下さい!

東京都知事 小池百合子殿

2024年9月19日

日本共産党利島村議会議員 笹岡寿一

## 利島の暮らし、営業、命と健康を守るための要望書

島民が安心して医療を受けられる体制をつくることは、切実な要求です。「付き添いが同行すると島外医療の旅費がかかって大変です。

島では広尾病院の医療を後退させないで」など、切実な声が寄せられています。利島村では全住民を対象に交通事情による2日までの延泊を含めて、交通費(ジェット船、愛らんどシャトル)と宿泊料金は



要望発言する笹岡議員(向かいに立っている人)

島嶼会館を基準に1回につき実費の5万円までの70%を回数制限なく助成することなど、制度の拡充が必要です。また、利島村では1人暮らしの高齢者が孤独死して発見されるまで2週間近くかかったり、熱中症にかかり12時間

余りして発見されて、数時間発見が遅かったら命に関わった事例が起きています。介護が必要な人以外も含めて、24時間面倒を見てもらえる施設が切実に求められています。離島の生活支援、産業振興を図り、安心して住み続けられるようにするためには、東京都の支援は決定的です。従来のかんじょうにとらわれず、都の大きな財政力を活用して利島村をはじめ、東京の島しょ支援の強化を強く求めます。

### 記

① 東京都として島外医療受診助成を実施すること。

【回答】各島しょ町村が独自に取り組んでいることは承知しています。

② 利島港の西側棧橋の拡幅など強度の確保を行う改修工事を迅速に進めること。

老朽化している利島港船舶待合所の整備を行うこと。

【回答】拡幅は来年1月には示せるようにします。船舶待合所は場所の問題があります。

裏面へつづく

9月19日午後2時より、都の会議室で東京都に左記のと通りの要望をしました。会議には各所管課長が出席しました。日本共産党からは、白石都議と藤田都議が同席して、一緒に要望。内容は左記のとおりです。

③ 介護の必要のない方も含め、1人暮らしに不安のある高齢者が入居でき、24時間の見守りや、介護が必要な人への介護などを提供する施設の村内への整備を支援すること。

【回答】施設整備には補助制度もあり、村からの要請があれば検討していきます。

④ 後継者が意欲を持って引き継げるよう、椿油産業への支援を行うこと。椿油製油工場の早期建設に向けて支援助成すること。

【回答】草刈については都の支援制度があります。椿油は利島の重要な基幹産業と認識しています。

⑤ ゴミ焼却施設の早期建設に向けて支援助成すること。

【回答】問題が生じていることは承知しています。 以上



## 利島の将来のために

なんとしても **実現したいこと** があります



のべ半世紀にも及ぶ議員生活の中で、さまざまな課題をみなさんと力をあわせて解決してきました。しかし今、利島の将来のことを考えると、どうしても実現しなければならないと思うことがあります。ひきつづき全力をあげて実現にとりくみます。

ささおかとしかず  
**笹岡寿一**

### 新製油工場 の早期建設

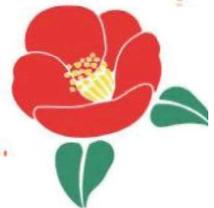
椿産業は利島村にとっての基幹産業。ならば生産者、農協の悲願ともいえる、新しい製油工場の早期建設は村政にとっての第一義的課題でしょう。

ところが村長は、「建設する」とは言うものの「建設年次は、明らかに出来ない」と言っています。用地取得も測量も具体的な計画を明示しない行政の姿勢に、住民のなかには不安と苛立ちがあります。

私は、今年度中にも用地を確定し、2027年度の秋には新工場の供用開始となるよう、ただちに取り組むことを求めます。

### 椿産業への支援を

「勤労されている若い人たちの生産意欲を誘引するために、「JAS椿油」の買取り価格に村が椿実1kg当たり350円の支援助成することを求めます。放置林化した椿林の復元も課題です。



### 島外受診 旅費助成

制度の拡充をはかりたい。全住民を対象に交通事情による2日間迄の延泊を含めて、交通費(ジェット船・愛らんどシャトル)と宿泊料金は島嶼会館を基準に1回に付き、実費の5万円迄の70%を回数制限なく助成する事を求めます。

これによる島嶼会館に2泊した場合の助成額は、往復「船舶」利用で20,000円・片道「愛らんどシャトル(大島間)」利用では、22,000円になります。

### 奨学金返済 1/2免除

社会に出るスタート時点から重い借金を背負うことのないように、村の奨学金返済額の半額を免除するよう求めています。年にわずか80万円程で実現できます。

### 補聴器 購入助成

実現はしましたが、金額はまだ不十分です。さらに拡充できるよう、国や都の支援充実も訴えていきます。